

## 平成28年度 校内研修計画

### 1 研究主題

#### 自ら学び続ける児童の育成

～問題解決力を高めるための授業づくり～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 現代的な課題から

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会化」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。

そして、改正された学校教育法では「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力・その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」としている。そして、以下の3点を学力の重要な要素としている。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 学習意欲

である。

また、千葉県では「人生を拓く『確かな学力』」を目指している。

「人生を拓く『確かな学力』とは、

これからの変化の激しい社会の中で、子どもたち一人一人が困難な状況を乗り越え、主体的・創造的に自らの人生を切り拓きながら力強く生きていくためには生涯にわたり学び続ける力を構成する必要がある。  
(「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムより)

そこで、本校では「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業の実践を通し、基礎・基本を身につけ、学んだことを活用し、さらに主体的に学んでいく児童を育成するために本主題を設定した。

#### (2) 学校教育目標から

本校は、「地域を愛し、心豊かで、自ら学び続ける子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、以下の3点をめざす児童像として設定し、日々の教育活動を行っている。

#### 【思いやりのある子】

- ・あいさつのできる子
- ・がまんのできる子
- ・感謝の心のできる子

#### 【自ら学ぶ子】

- ・自分の考えを持ち表現する子
- ・生活を自らよくしようと工夫し、実践する子
- ・地域とかかわり、地域を知り地域を学ぶ子

#### 【たくましい子】

- ・最後まで粘り強く取り組む子
- ・目あてを持って体力づくりに励む子

### (3) 児童の実態から

全国学力・学習状況調査や千葉県標準学力検査の結果から、既習事項を活用したり、自分の考えをまとめたりする能力が低いことや、文章問題や自分で説明する問題に対して、意欲が持てない現状があることがわかった。日々の授業の中でも、立式や解答を求めることを目的とし、「なぜそうなるのか」と自ら主体的に考え進めていこうとする児童が少ない。そのため、文章問題などの応用問題に対し、数字の操作のみにとらわれたり、最初から考えることを諦めてしまったりする傾向にある。つまり、課題は何かを把握し、主体的にその解決方法を考えることを自分なりのその考えを発展させることを苦手としている児童が多いといえる。

そこで、意欲的に取り組める問題を通して、課題解決に向け問題に粘り強く立ち向かう姿勢や考える力を育てていく必要がある。

## 3 研究目標

○児童が確実に基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それを活用しながら、進んで表現していくための効果的な指導の在り方を、算数科の指導を通して追及していく。

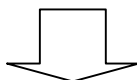
今年度の研究

- ・指導の重点を明らかにした教材研究・単元の基本構想をもとに、多様な活動・思考を導き出せるような学習指導法のあり方を探る。
- ・目的意識を持った児童の主体的な問題解決(やる気モード)を引き出す授業の創造
- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着と教材開発(算数道場の充実)

## 4 めざす児童像

現在の課題

- 市内一斉学力テストにおいて市内平均を下回っている学年が複数ある。
- 既習事項を活用したり、自分の考えをまとめたりする力が弱い。
- 文章問題や自分で説明する問題に対して、意欲が持てない。



めざす児童

- 学んだことが確実に身についている子
- 課題から目をそらさず、考えることをあきらめない子
- よりよい課題解決の方法を、自ら探っていく子
- コミュニケーションを解決の手段として使える子

低学年ブロック

- ・問題解決の見通しを立てられる子
- ・既習事項を使って、よりよい問題解決方法を自ら考えることができる子

高学年ブロック

- ・問題をイメージしたり解決の見通しを立てたりすることができる子
- ・伝え合うことで、自分の考えを整理し、深めることができる子

## 5 研究仮説

【低学年ブロック】

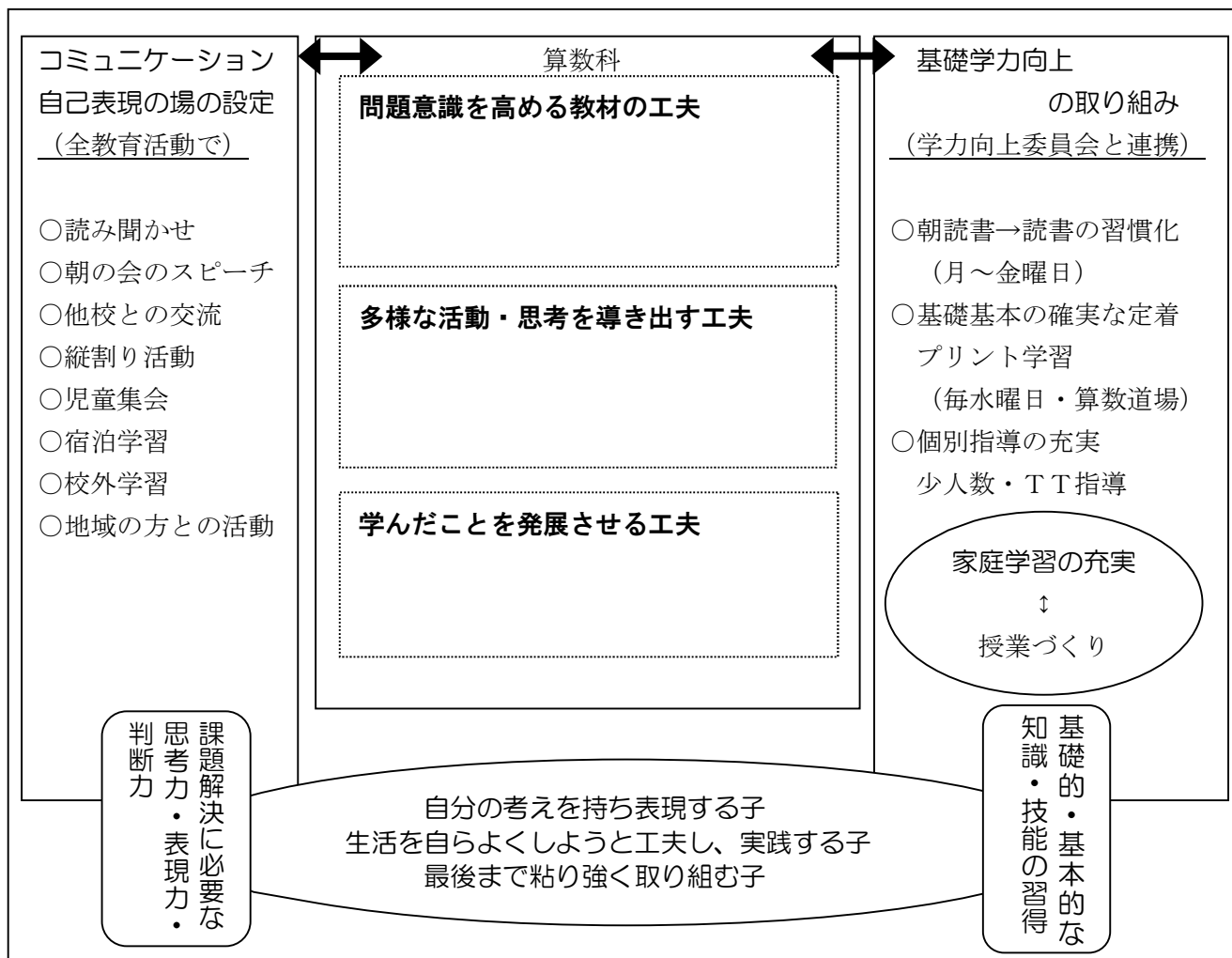
学習意欲をを高める教材の工夫をや学びあう場の工夫をしていけば、いろいろな考え方で問題を解く喜びを感じ、粘り強く問題解決に取り組むことができるだろう。

## 【高学年ブロック】

自分の思考過程を表出させる（絵・図・言葉・式など）工夫をすれば、問題をイメージしたり解決の見通しを持ったりする力がつき、問題に粘り強く立ち向かう子になるであろう。

## 6 研究内容と方法

研究の全体構想



研究の方法

- (1) 千葉県学力テスト，南房総市一斉学力テスト等からの児童の実態把握
- (2) 校内研究組織の整備
- (3) 基本的な学習活動の指導過程の整備
- (4) 指導法の工夫と改善（基礎学力の向上・思考力表現力を高める授業づくり 一人一実践授業）
  - ・児童の算数の学習に関する意識調査
  - ・既習事項を振り返る時間の確保
  - ・自力解決の時間の十分な確保
  - ・図や表を使って解決するための指導法の改善
  - ・適用題に取り組む時間の確保、適用題の内容の精選
- (5) 繰り返しの学習，算数道場の工夫
- (6) 家庭学習の充実
- (7) 他教科からのアプローチ

## 7 研究の組織

